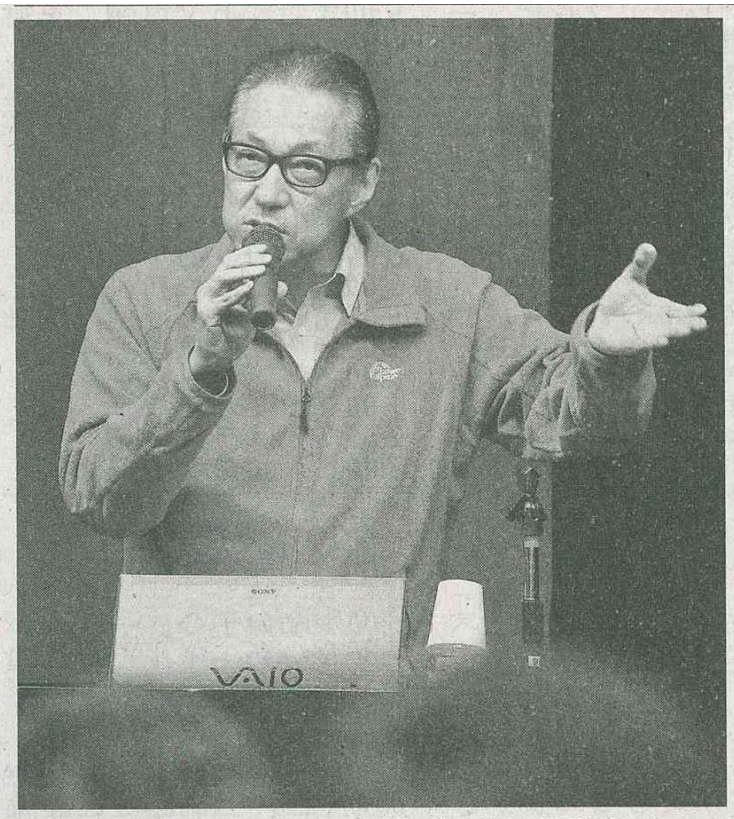
生きる意味 作品に込め

寝屋川 ドリアン助川さん講演

人権週間（4～10日）を前に、ハンセン病を題材にした小説「あん」の作者、ドリアン助川さんが1日、寝屋川市の市立市民会館で「私たちはなぜ生まれてきたのか？」と題して講演し、約150人が聞き入った。



小説「あん」の創作秘話を語るドリアン助川さん（寝屋川市で）

「あん」は2015年に映画化。療養所で長年隔離されてきた主人公の女性を、9月に亡くなった女優の樹木希林さんが好演したことでも話題になった。

ドリアンさんは、1990年代後半からハンセン病に興味を持ち、長年テーマにした作品を書きたいと思っていた。その後に療養所で暮らす患者らと偶然知り合ったことで、ストーリーが膨らんでいったという。

作品に込めた思いとして、死期を悟った主人公の「この世を見るため、聞くために生まれた」という人生を振り返る言葉を紹介。「きっと誰にも生きる意味があるというメッセージが、世界中の人々の共感を得て広がっているのであればうれしい」と結んだ。